第4段階 ガリラヤの大宣教
E. 十二使徒の任命と「山上の教え」

2. 山上の教え、パート1：イエスに従う者の基本的な態度

デイリージーザスニュース #068

基本テキスト: MT 5.1-12 (パラレルテキスト: ルカ6.17-26)

ᴸイエスは使徒たちと一緒に山を下って行き、平らな場所に立たれた。

1 イエスはご覧になって の 群衆 弟子たちと大勢の 人々はMTに座りました。

ᴸ彼らはユダヤ全土、エルサレム、ティルスとシドンの沿岸からやって来た。彼らはイエスの教えを聞き、また病気を癒してもらうために来ていた。悪霊に悩まされていた人々は癒され、人々はみなイエスに触れようとした。イエスの力はみな癒されていたからである。

が彼のもとにやって来て、 2 そして ᴸは弟子たちを見て、 MTイエスは彼らにこう教えました。

3 *「心の貧しい人は幸いである。 天国は彼らのものだからです。ᴸしかし、富んでいる人たちは災いである。あなたたちはすでに慰めを受けているのだから。*

4 MT *」悲しむ人は幸いだᴸそして今泣く、 MTはᴸ笑う -- MT慰められる。ᴸ今笑っているあなた方は災いである。あなた方は悲しみ、泣くことになる。*

5 MT *」柔和な人は幸いだ、 彼らは地を受け継ぐからです。*

6 *」飢えている人は幸いだᴸは今MTと正義への渇望、 彼らは満たされるであろう。ᴸ今満ち足りている人たちは不幸である。あなたたちは飢えるであろう。*

7 MT *」慈悲深い人は幸いだ、 彼らは慈悲を受けるであろうから。*

8 *」心の清い人は幸いなり。 彼らは神を見ることになるからです。*

9 *」平和を実現する人は幸いである。 彼らは神の子と呼ばれるからです。*

10 *」義のために迫害される人々は幸いである。 天国は彼らのものだからです。ᴸすべての人があなたがたのことをほめるとき、あなたがたは災いである。彼らの先祖たちが偽預言者に対してそうしたのと同じである。*

11 MT *」人々が私はあなたを憎み、彼らが排除し、 MTはあなたを侮辱し、迫害するᴸしてあなたの名前を悪として汚しなさい、 MTそして私のせいであなたに対してあらゆる悪を偽って言うでしょう。ᴸ人の子。*

12 MT *」その日には喜び祝え。喜び躍れ。 MTなぜなら、天国においてあなたがたの受ける報いは大きいからです。あなたより前の預言者たちも同じように迫害されたのですから。 」*

=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=-=

第4段階 ガリラヤの大宣教

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = [MT]、マーク = [M]、ルーク = [L]、ヨハネ = [J]、使徒行伝 = [A]。この」上付きID 」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、 *イエスの言葉は赤の斜体で表記されています。*旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	2. 山上の教え、パート1: イエスに従う者の基本的な態度

コメント：

イエスは十二使徒を任命した後、弟子たち全員に、イエスに従うための核となる価値観と原則を説明しました。これは、使徒たちがイエスの証人として従い、他の人々に伝える責任のある、イエスの最初の包括的な教えでした。

イエスは、12人を選ぶための最後の準備として、夜通し祈るために山のもっと人里離れた場所に登りました。イエスが12人を選んだ後、弟子たち全員が山を下りて、もっと低くて平らな場所に行きました。そこには、ガリラヤ湖のほとりでイエスと一緒にいた大勢の人々がイエスを待っていました。

イエスは群衆に説教した後、少し高いところまで登り、十二使徒と他の弟子たちと一緒に座り、教え始めました。大勢の群衆が耳を傾けていましたが、マタイとルカのどちらも、イエスが弟子たちに話していたことを明確にしています。弟子たちはすでにイエスを信じ、教師（ラビ）であり主であるイエスに倣って人生を歩むことを決意していた人たちです。

イエスの弟子としての教えの最初の部分は、イエスに従う上で最も重要な問題、つまり私たちの態度に焦点を当てていました。イエスは常に人々の心と精神から始め、内側から外側に向かって働きました。イエスが「祝福」または真の満足として説明した 8 つの態度がなければ、私たちはイエスの教えのどれにも一貫して従うことはできません。すべては態度の問題です。

これらの態度はすべて、基本的な優先順位を表しています。イエスはそれを***「神の国とその義とをまず求めなさい」と表現しています。***マタイ 6:33。言い換えれば、ここでイエスが説明している 8 つの態度はすべて、イエス王のしもべ、または愛の奴隷として生きたいという、燃えるような情熱的な願望の表現です。神の国とは、王がおられ、すべてを積極的に支配しておられる場所です。神の国を求めるということは、私たちが、私たち自身、そして神に属するすべてのもの、つまりすべて、神が私たちに個人的に託しておられるすべてのものに対する神の絶対的な主権に、喜びと愛をもって服従することに集中することを意味します。

第4段階 ガリラヤの大宣教

イエスに完全に服従することが私たちの情熱的な人生の目的になると、すぐに問題が起こります。私たちの中にその目標に積極的に反抗する何かがあることに気づきます。それは私たちの自己中心的な罪深さです。そして、私たちはイエスに従うことに積極的に反対する世界に住んでいます。8つの態度は、罪深い世界で私たち自身の個人的な罪深さと闘うという実際的な現実を説明しています。

わたしたちの罪深さは、わたしたちが霊的に***「貧しく」***、イエス様から離れては自分自身の資源で生きるには無力であり、実際破産しているということを気づかせます。このため、わたしたちは全身全霊でイエス様に***「飢え渇き」ます。わたしたちは自分の罪と失敗のすべてを「嘆き」ます***。わたしたちは自分のわがままを捨て、イエス様に完全に身を委ねる***「柔和さ」をもって生きようと努めます***。

これらの欲求はどれもそれ自体では満たされるものではなく、実際、ほとんどの人が心から避けようとするものです。しかし、弟子たちは、それを続けることがどんなに苦痛であっても、これらを受け入れます。なぜなら、これらの態度を追求することで、私たちはキリストを得始めるからです。つまり、キリストの恵み、許し、慰め、そして力を経験するのです。

良い面としては、私たちは徐々に***「心が清らか」になり***、それによって神をよりはっきりと***「見る」ようになります***。私たちは神の平和を経験し、それを他の人に伝えることを学びます。 ***「平和の使者」。***私たちはイエスからの絶え間ない***「慈悲」を経験し***、それを他の人に広げることを学びます。そして、世界は罪深い場所なので、私たちが求めているようにイエスに従わない人々の敵意と反対（迫害）も必然的に経験します。それは私たちにとって大きな栄誉であり、永遠の喜びの源です。

もし私たちがイエスの主権を体験することの素晴らしさと栄光に情熱を傾けなければ、私たちはただ一貫してイエスに従うことはできないでしょう。イエスと親密に歩むためには、イエスが私たちの第一の愛、私たちの***「すべて」でなければなりません***。そうでなければ、私たちはイエスが進む基本的な方向には従うものの、大きく遅れをとることになります。日々イエスの声を聞き、イエスの顔を見るという言い表せない喜びを味わうことなく。

イエスに従うということは、規則のリストに従うことではありません。宗教でもありません。それは、私たちの人生で他には近づけないほどの情熱、願い、熱意をもって、生ける人格、三位一体の神を愛することです。この姿勢は、イエスに本当に従うためのかけがえのない条件です。この姿勢がなければ、私たちは信心深くても、イエスに似ることはできません。なぜなら、私たちはイエスに自分を合わせていないからです。

応用：

空虚、飢え、渇き、悲しみ、絶望は、イエスに従うことに対するあなたの態度をどの程度表していますか？

心の清らかさ、イエスを見る能力、和解を見たいという愛、そして慈悲の心の成長は、あなたの精神的な旅をどの程度表していますか？

イエスに従うことは、イエスに従わない人々からの反対に耐えることにどうつながるのでしょうか。

彼を知りたいというあなたの情熱をどの程度評価しますか? それについて何をする必要がありますか?

第4段階 ガリラヤの大宣教